

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

へいせい ち しんかん えまき ほ けきょうさつ し
平成知新館2F-1(絵巻)に展示されている「法華経冊子」について勉強してみよう。

小さな冊子に 思いを馳せて

みなさんが文字を記したり絵を描いたりした一片の紙、それはもしかすると何百年の後に伝えられるのかもしれませんが。ご紹介するのは、今から約900年前の昔より伝えられてきた、小さな冊子です。(図1)

ページをめくっていくと、漢字を記したさまざまな色の紙が現れます。記されているのは、『法華経』という仏教のお経です。『法華経』は数あるお経のなかでもとくに重視され、広く親しまれてきました。鳩摩羅什という人が漢訳した全8巻のうち、この冊子は巻第5の一部を書き写しています。

よく見ると、紙には字の下に文様が表されています。お見せしているページには、イメージ図(図2)のように、菱形で囲んだ花の文様を、間隔を空けて繰り返し、それぞれの間にもまた花と唐草を配しています。直線と曲線を組み合わせて、優雅な文様を織りなします。

版木を使って多種の文様を摺り出したこうした紙のことを唐紙といい、貴族たちが和歌などを記すのに好んで用いました。普通の真っ白な紙ではなく、文様や絵のある紙をつかうとき、すこし嬉しくなるのは私たちと同じです。しかも唐紙は、当時あこがれの先進国、中国からの高級な輸入品です。この冊子の紙も中国(北宋)製と考えられていますが、当時の人はたまらない魅力を感じていたのでしょう。ちなみに、唐紙という名前は、当時の人々の多くが中国のことを「唐国」と呼んでいたことから付けられているのです。(ただし、唐紙はのちに日本でも製造されるようになります。)

さて、80ページあるこの冊子の中で、11ページ分だけ、字の下に文様ではなく人物や背景のある絵を描いているところがあります。これらは日本で描かれた絵ですが、今回はそのうちもっとも華麗な場面をご覧くださいませ。(裏面図3)

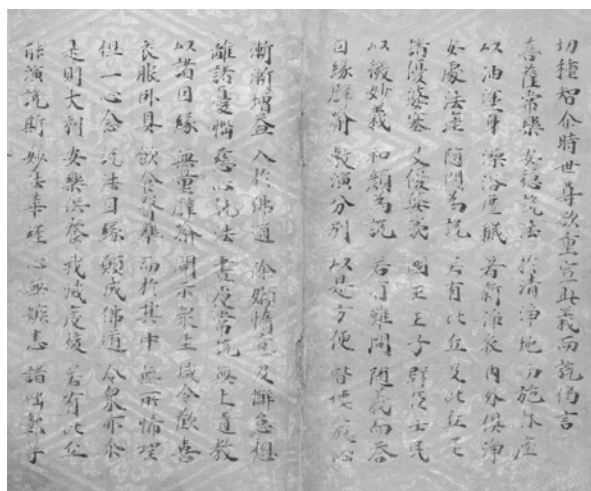


図1 重要文化財 法華経冊子(38・39ページ) 個人蔵



図2 イメージ図

